

会長挨拶 養秀同窓会会長 田場 稔



明けましておめでとうございます。新年のご挨拶を申し上げます。

二年前の10月31日には、我が沖縄の象徴であり、心の拠り所であった首里城が火災で焼失し、県民呆然自失となりました。

又、去年は中国武漢より発生した新型コロナウイルス流行により、三密を避けるように言われ、身を小さくして1年間を過ごしました。いずれもはじめての経験で、会員の皆様も大変な思いをしたと思います。

首里城火災の件については、首里高は首里城の近くにあり、首里高生にとって大変身近な存在であり、尚温王が設立した「国学」を継承する学校として、首里城再建に向けての募金活動をすべきであるとの同窓会員の声を受け、同窓会員にホームページや文書で募金を呼びかけたところ、短期間で100万円の募金が集まり、2019年12月26日、県庁で富川盛武副知事に手交しました。（琉球新報2019年12月27日掲載）

なお、沖縄の県立高校の同窓会で首里城復元募金を実施した例は、我が養秀同窓会以外での取組みの例は、寡聞にして存じません。

次に、去年首里高校は、「国学創建二百二十年、県立一中、首里高等学校創立百四十周年」を迎え、大きな記念事業を企画しました。記念事業はまず首里高校の希望を第一に、次に首里高校生が誇りを持てる事業を計画しました。

令和元年12月に配布した趣意書には、記念事業として、

1. 養秀育英奨学事業（医・歯・薬学並びに難関大学合格者及び海外留学派遣生徒向けの給付制奨学制度）
2. 記念講演会・記念式典及び記念誌発行
3. 教育活動等支援推進事業
4. 一中健児の遺書の復元

以上の記念事業を掲げ募金の目標額を3,000万円としました。

しかしながら、新型コロナの影響で募金活動は大変な困難に遭遇しました。募金を期待していた企業からは名刺交換はオンラインで、面談も遠慮するよう言われました。又PTA役員が計画した記念ボトルやタオルの販売は、3密を避けるため、入学式、卒業式が挙行されず、買っていただくのに苦勞しました。こういう状況の中で、同窓会としては、記念事業の趣意書を全会員に郵送したり、各期の代表理事を通して各期の会員への募金依頼文や各期毎の募金状況をお知らせして、募金活動に力をいれた結果、目標額に近づいてきたと思います。3密をさけるため、祝賀会は開催しませんでした。12月9日の式典は厳粛な中で挙行され創立140周年事業は無事終了しました。

私は首里城復元や140周年記念事業への養秀同窓会員が共通の目標に向かって協力し合うという結束力の固さに感銘を受け、感動しました。

これからも養秀同窓会の諸活動に、校歌の四番「古城のほとり咲き匂う 文化の華を偲ぶれば いで中山の若人よ 若き血潮の よどみなく 奮いはげまん 諸共に」を口ずさみながら取り組もうと思います。会員皆様の御協力をお願いします。

令和3年1月1日